# 誌上行学講習会

高佐日煌上人

菩薩心の天上心は布施心。つまり人に物を与えるということを楽しむ心であります。布施には四つの種類があります。物をやるといっても無ければやれない。無い袖はふれない。しかし何もなくても布施行は出来る。その布施行の四つとは、一、法施、二、財施、三、身施、四、無畏施のことで二の財施以外は形のないものです。先ず法施とは人に知恵を与え、知らないことを教えてやること、身施とは身体でつくす、骨を折ってやること。無畏施とは安心を与えること。「徳は孤ならず必ず隣あり」という儒教の言葉がありますが、いつも人の為につくしている人は弧独でない、何時か自分自身も多くの隣人から助けられるというのであります。又我々は世の中から計り知れない恩恵を受けています。俺が働いて俺の金をもうけたのだ。決して世の中から恩を受けたのではないという変人もいますが、ではお金だけで生活出来るのか。ものが無かったらどうする、金は物を買うための金で、ものが無ければ三文の価値もないではないか。これは戦争を体験した人が等しく知らされたことですが、いくら金を持っていても米が買えない。品物がない。お百姓さんのところへ行って平身低頭して懇願する。しかし金ではだめ、物々交換ということでやっと米を手に入れる。都会の金持ち物持ちはみな田舎のお百姓さんの方にバトンを渡してしまった。かつて私は講演を依頼されて南多摩地方に行ってこの実態をはっきり知った。ちょうどお盆の時期でしたが、村の娘がすばらしいチリメンの長じゅ伴を着ておどっている。嫁入り仕度かと思って聞きましたら「いえ先生あれは都会の物持ち大金持ちから米の代りにまきあげたものです」と言われて驚いたことがある。こと程さように金があっても物が無ければだめなのであります。そしてその物とはみんながこしらえるもので決して自分一人でこさえるものではありません。

みなさんの着ているシャツ一枚にしてからが、自分でつくったものではない、繊維（せんい）をつくり織機にかけねばならない。時計だってそうです。腕時計の小さいのを裏をはずしてごらんなさい。大変なことです。見えないような小さな部品が一ぱいです。そういうことを考えると安いということになるわけです。眼鏡にしてもなかったらどれほど不自由でしょうか。私は最近少ゝ耳が遠くなりはじめましたが、これとても補聴器という結構なものが出来てたすかっています。我々は何をもってこれに報ゆるか、真剣に考え出来る限りにおいて感謝の心をもち、人さまに親切なふるまいをし、恩をお返しするという生き方、即ちこれが布施行でありますが、布施心を持つべきなのであります。

菩薩心の声聞心は知道心。今や皆さんは縁覚界を越えて菩薩界の知道心まで来ているわけであります。道を学ぶことを楽しむ心であります。

菩薩心の縁覚心は覚道心。縁覚心は自分で実行してみないと解らない。即ち体験によって道を覚り、それを心から歓喜するという心理を言うのであります。

菩薩心の菩薩心は上求菩提心。これは堪えずおこたらず自分をみがいてこれでよろしいという満足感、安心感を持たない。修養の世界につねに心を向けて努力精進する心をいうのであります。

以下次号